

平成 30 年 7 月 21 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 30 年度 第 7 回

川村代表幹事が「酷暑」と言われましたが、本当にお暑い中、よくお集り下さいました。一昨日は名古屋から学生時代の友人が東京に出て来たので、都内を案内しました。炎天下の中を 10 ヶ所歩き回っておりまして、これは普段の暑さとは違うと感じました。「酷暑」「炎暑」「猛暑」という言葉がありますが、死んでしまうような危険な暑さという意味で「逝暑」という言葉が浮かびました。勿論、気象庁も言っていないし、辞書にもありません。これからもっともっと酷い気候が当たり前になるでしょう。

主観で考える

では、最初に恒例の質問から参ります。7 月も半ばを過ぎましたが、今月は如何でしょうか。

- 今月は、比較的良い日が続いていると思う方
- 今月は、まるっきり嘘をつかなかった方

さすがにこれは少ないですね。では、比較的嘘をつかなかった方・・・圧倒的に増えますね。

- 今月は、有難うと言い、有難うと言われることが結構あった方

念を押しますが、何回あったとか客観的な数字で考えるのではなく、主観で、言われた瞬間にパッと浮かべばよいのです。

- 今月は、健康法をよくやったと思う方

これは、具体的にお考え下さい。私はだいたい朝 1 時間ストレッチをして、その後、自転車に 30 分乗ります。昨晚は都内で詩吟の稽古があったので熊谷のホテルに泊まりましたから、今朝は簡単な健康法だけやりました。ですから、自分で考えたことをきちんとやる必要はなくて、これだけはやりたいと思うものをやればよろしいのです。私の場合は骨粗しょう症対策の運動で、踵を上げてポンと床に下ろす。この運動を 30 回くらいやると骨密度が上がるそうですから、必ずこれだけはやるようにしています。

- 昨晚寝る時、今日は良い日だったと思って寝た方

では、手を挙げた方に伺います。

○ 明日も良い日だったなと思って寝た方？

・・・お二人おられました。

理屈で考えると、そんな馬鹿な！ と思うでしょう。ですから主観で思えば良いのです。脳がそう思ってくればよいわけなので、脳を訓練すれば、明日を過去形で考えられるようになります。イメージトレーニングですね。

以前、増山会員が営業の電話を一日 50 軒～100 軒かけると言っておられました。良い対応ばかりではありませんから、心が折れたり萎えたりするわけです。そこで、気持ちよく電話をかけ続けられるためのおまじないを言えばよいとアドバイスさせて戴きました。

それは、私の体験から出たものです。私も 20 代の頃、1 日 100 軒回ると自分で決めて飛び込みの営業をしました。その時は、自分で勝手に閻魔大王の生殺与奪の権を持っていると想像して、＜この人は長生きしてよい＞ ＜この人は対応が悪いから命の炎を消してしまおう＞・・・と、こんな話はあまり人さまに言えませんね。しかし、そういう体験があるから、パッとアドバイスが出来るのです。本で読んだだけでは、なかなか答えられません。自分が汗や涙を流した体験ならば、聞いた方がなるほどやってみようかなとなりますね。

化学的に言えば、脳は錯覚をするのだそうです。健康長寿に関する本で読んだのですが、日本人は縄文時代、木の実や海藻を食べて命を存えてきました。一万数千年にわたって、その DNA に従って生きて来たわけですから日本人の身体には、食べた物をしっかり脂肪に変えて身体に蓄える仕組みが出来上がっていたし、そのために木の実でも何でも食べたら＜美味しい＞と脳が思うような仕組みになっていた。ところが、たかだかここ数百年で日本人の食べるものが激変したので DNA が追い付いていかない、ということが書いてありました。

甘い物を食べたり、食べたいものを食べると、脳が満足します。しかしながら、脳が満足するまでには時間がかかりますから、その間に食べ過ぎてしまいます。そこは理性で脳の錯覚と闘わなければいけないということになります。

ということで、＜明日も良かったな＞と過去形で考えるには、脳の錯覚を活用すればよいのです。尚且つ、主観で考えればよい。客観でものを考えるのが良い、という時代はもう終わりです。

○ 今月、自分磨きをよくやっていると思う方

自分磨きは、どんな内容でも結構です。

時代は動いている

一昨日、顧問の矢野弾先生の潮流社が発行している「カレント」が 8 月で 888 号となる

のを記念して、「カレント」の執筆者と志を共にする方々、政治家や経済界から 20 人程度が集まりました。私も矢野先生に声をかけて戴きましたので、猪瀬理事長と一緒に行って来ました。その中で面白い話をお聞きしました。時代が変わっていると感じた話をご紹介します。

一つは、アメリカのマサチューセッツ工科大学の教授が、放射性物質を無害化する研究に成功したそうです。北朝鮮から核爆弾が飛んで来たとしても核爆発は起きない、そういう時代に入ったと言っておられた方がいました。口に出した話は実行されますから、何年かかるか分かりませんが、放射能の無害化が進んでいるのだなと感じました。

もう一つ、日本の国を良くしたいという理念のもと、人材を集めて企業に紹介をする会社の社長さんが話をされました。現在、大学生の登録が 4000 人ということでした。その方の話に興味を覚えたので、昨日、会社に行って来ました。九段下にあるビルの 1 階から 8 階まで借り切っていました。中に入って驚いたのは、あるフロアは細かくブースが分かれていて、各ブースでは学生さんとスタッフが一對一で面接の練習をしていました。良い会社を見つけて就職したい、自分の能力はどれくらいか知りたい、どういう会社が自分に合うかを知りたい・・・それを求めて就活生が集まるのだそうです。大声で議論をしていて、非常に熱気がありました。今の就活はこうなっているのかと驚きました。

一方で、どこの大学にもキャリアセンターがありますが、そこは閑古鳥です。学生は大学が用意したキャリアセンターには行かず、民間の就職活動をしている会社に殺到しているという現実を目の当たりにしました。人を紹介する会社が凄まじい勢いで利益を上げている。新しい時代になっているなとつくづく感じました。ちなみに、孔子が教えたものも弟子から見れば就職活動です。キャリアに就職したいという人間が孔子の元に集まって、孔子の教を学んで、就職していったわけです。ですから、この会社は現代版の孔子塾だと感じました。

益者三友、損者三友

では、論語の解説を致します。その中で時事評論を入れてお話致します。本日の論語は、季氏篇 3～5 です。

【三】孔子曰く、ろうく こうしつ さ禄の公室を去れること五世。ごせい まつりごと たいふ およ政 大夫に逮べること四世。しせい ゆえ故にか
さんかん しそんびの三桓の子孫微なり。

孔子が言うには、魯の国で天子の実権がなくなって、5 代たった。政権が大夫の手に移ってから 4 代たった。その後は、更にその下の陪臣が実権を横取りする。最初に政権を横取

りした三桓の子孫は、もう衰えてしまった。

日本の歴史と照らし合わせてみると、同じですね。源頼朝が鎌倉幕府を開いて、3代でその権力は家臣の北条氏に移り、北条が7代で滅んだ後は、足利尊氏が政権を握りました。室町幕府の実権はその後、家臣の細川晴元が握り、その家臣の三好長慶へ移り、そのまた家臣の松永弾正へと移って、松永弾正は織田信長に殺されて室町幕府が終わります。

会社も同じです。二代目、三代目が順調で、良い人物が出たら何代か続くでしょう。それでも実力が足りない社長が出れば、その下の頭の切れる人間が権力の座につくことになるのでしょうが、その時に上の人間を立てないで横取りをしたのであれば、それも長くは続かないで、またその下の切れる人間が出て来ます。日本の場合は、婿養子という良い仕組みがありました。血筋を守りながら創業者のものの考え方をずっと伝えて会社が発展していくスタイルです。

中国の場合は、王朝が立っても君主の力が衰えて次の王朝に交代をすると、前の王朝の時に認められていた土地の所有権から何から全てチャラになるわけです。そういうことも考えながら、この論語をお読み戴くとよろしいでしょう。

【四】孔子曰く、益者三友、損者三友。直を友とし、諒を友とし、多聞を友とするは益なり。便辟を友とし、善柔を友とし、便佞を友とするは損なり。

友達を選びなさいという非常に常識的な話です。

孔子が言うには、良い友達と悪い友達、それぞれ三種類ある。直言してくれる人、誠実な人、博学な人、これらの友人と付き合うのが良い。見てくれがよい人、おべっかを使う人、口先だけの人、これらの人を友人にするのは損である。

直を友とす・・・認知症で考えます。仲間に、最近物忘れが激しいと話をした時、「加齢だから気にすることはないよ」と当たり障りのない返答をする人と、「お前は認知症だから、迷惑をかけないうちに早く引退しなさい」と言う人がいます。後者は直言です。

私の経験で申しますと、何年来の友人であっても、直言だからといって腹の中にあるどろどろした部分を喋ってはいけませんね。本当の本音は、言わない方が良いでしょう。本人を傷つけないように、手助けをする形でそれとなく気付かせる。相手のためになるような直言が良いと思います。

諒を友とす・・・中斎塾でいつも言っている「嘘はつかない・約束を守る」です。

多聞を友とす・・・知識が沢山ある人です。知識は、縦の学問による知識と横の学問による知識がありますが、ここは横の知識を言っていると思います。ただ、自分の知らないことを分かるように教えてくれる、そういう友人を持った方が良いと思えばよいでしょう。

便辟・善柔・便佞・・・あたりがよい人、自分に良い事を言ってくれる人、役に立つなと思う人、全部ひっくるめて「？」と思ってお付き合いするが良いでしょう。

仕事をする上でも、何かを学ぶ上においても、「なぜ？」を常に持っていないといけません。

ということで、益者三友・損者三友、それぞれご自分で味わって下さい。ご自分の所に色々な人が寄ってくる。なぜ自分の所にくるのか、その動機を想像してみるとよろしいでしょう。

【五】孔子曰く、益者三楽、損者三楽。礼楽を節することを楽しみ、人の善を道うことを楽しみ、賢友多きことを楽しむは、益なり。驕楽を楽しみ、佚遊を楽しみ、宴楽を楽しむは損なり。

孔子が言うには、為になる楽しみと損になる楽しみ、それぞれ三種類ある。礼儀作法を身に付け音楽を嗜む楽しみ、他人を褒める楽しみ、刺激を与えてくれる人を見つける楽しみ、これらは自分を高める良い楽しみである。偉そうに驕る楽しみ、遊びほうける楽しみ、酒食荒淫の楽しみ、これらは自分を貶める楽しみである。

礼楽を節する・・・礼儀作法と音楽、まとめると「文化」です。一つの企業であれば、企業文化というものがあります。なければ、創らなければいけません。自然発生的に生まれたら、それを更に仕組みとして会社の中に生かさねばならないと思います。

人の善を道う・・・人は、褒めてもらいたいものが何かあるわけですが。他人を褒めるには、その人の素晴らしいところを見抜く力が必要です。それが持てたら楽しいことだと言っています。

賢友多き・・・賢友とは、人さまに刺激を与える人間です。友達関係だけの意味ではなく、人間と捉えればよろしいでしょう。その人の話を聞いて、行動を見てハッとします。ハッとすると自分を磨くことに繋がりますから、そういう人を見つけるのは良いことだと言っています。

驕楽・・・何と俺は偉いのだ！と思う。

佚遊・・・家庭を放って外でほっつき歩く。

宴楽・・・酒に溺れて異性に溺れる。

いずれも自分は楽しいでしょうが、良いものではありませんね。

時事評論

では、この論語をベースにして時事評論に参ります。今朝の読売新聞一面は気になる記事が沢山ありました。たった一面に、これだけおかしな記事が載っている理由を考える必要があります。

・カジノ法成立

政治家が一生懸命カジノ法案を成立させたいと努力して成立しました。23年には国内開業と出ています。先ほど、「なぜ？」を常に持って下さいと申しました。なぜ、政治家はカジノ法案を急いだのでしょうか？ 「カジノ収益の30%を国と地方自治体に納める」とあります。政府の収入になるから、カジノをやるのでしょうか？・・・それだけではありませんね。

「益者三友、損者三友」をそのまま当てはめて考えれば、利益を得るのは誰で、損をするのは誰でしょうか？ カジノの目的はマネーロンダリングです。不正な手段で利益を得た人間はどこかでマネーロンダリングをしなければならないから、どうしてもカジノを作りたい。そして政治家はそのお先棒を担いで、いくらか貰うのでしょうか。

後ろの紙面を見ると、「政府は日本の魅力を世界に発信できるとともに、外国人旅行客の増加が見込めるとして、IRを成長戦略の柱と位置付けている」とあります。更に、「大和総研の試算では、約2兆円の経済効果がある」と、カジノを作れば儲かるという話ばかりです。

新聞に書いてあるのは皆、良いことをやっている、世の中のためになる、という書き方ばかりです。ですから、<何故こういう書き方をするのか> という見方をしないと乗せられてしまいます。

・海外贈賄 3人在宅起訴 一初の司法取引

心の底から司法取引を欲する人は誰でしょうか？ 自分の足元に火が点きだして、何とか司法取引で自分が逮捕されないようにしたいと思っている政治家たちが、必死になって司法取引を実行させたのでしょうか。有象無象に色々やらせている間に、自分たちの不正を闇から闇に葬るのが司法取引のやり方です。ですから、一番喜ぶのは政治家でしょう。

後ろの紙面を見ると、検察幹部の言として「企業の捜査協力を得て、責任ある立場の元取締役らを起訴できた。国民の納得も得られるだろう」と、この司法取引は国民が納得し

てくれるだろうと、恐る恐るやっています…という本音が透けて見えます。見出しには「企業免責 疑問視も」とありますが、これは政治家の免責を狙っているのです。なぜ、新聞はこういうことをきちんと解説しないのかと感じます。

・五輪チケット最高 30 万円

これは無茶苦茶ですね。誰でも観られるように一番安いチケットは 2000 円台ですが、30 万と 2000 円では力の入れ具合は当然違うでしょう。なぜこんな事になるのでしょうか…。何事も分からなくなったら原点に戻る、自分自身であれば初心に戻ると申し上げています。オリンピックはもともと何のために出来たのかという原点に戻れば、これはもう逸脱していること甚だしい。オリンピックは金にまみれた大会になってしまったから、いつ消えてもおかしくはないと私は思っています。金に群がっている人たちを相手にしていて、尚且つ、そこから金を巻上げようとやっているのがオリンピックです。記事を読むと、よくこんな綺麗な書き方をしていると思います。

・日本貨物航空に改善命令

航空機の整備記録を改ざん・隠ぺいしようとしたとして、事業改善命令と業務改善命令を受けた日本貨物航空のトップが頭を下げている写真が載っています。

少し前には、三菱UFJモルガン・スタンレー証券が国債の相場操縦の不正で資格停止になりました。大手自動車メーカーもデータを改ざんしていました。

大企業は、不正をするのが当たり前になっているのでしょうか。そして、トップは皆、他人事のように見えます。「中堅幹部たちがやりました。社内を肅正致します」で、幕引きをしてしまう。先ほどの司法取引にしても、取締役の責任まで追及できたのだから、検察としてはよくやったと国民も褒めてくれるだろう…という具合です。何かが違ってきますね。

安倍さんが付度などやらせているものだから、企業でも付度が横行するのでしょうか。トップはこういうことを喜ぶだろうと付度して、改ざんをしている。不正な利益を上げてでもトップを喜ばせようとする。大企業、政治家や官庁…今の日本の国を動かしている中枢の人たちは、「自分は付度などしていない」と胸を張れる人間はいないのではないかと感じてしまいます。

基本哲学「知足」

我々が学んでいるのは「知足」です。足るを知るという考え方は、がつつかない・ほど

ほど、と何度も申し上げます。日本の企業は「三方良し」（売り手良し、買い手良し、世間良し）という考え方で成り立ってきています。この「三方良し」は、足るを知るという考え方が発展したものだと感じています。ですから何か困ったことが起きたら、「知足」で判断すればよろしいでしょう。

「十牛図」

本日のテーマは前回に続き、「十牛図」の2回目です。中村天風先生の「十牛図」の解説はとても分かりやすい。それは本物だからです。難しいことを咀嚼して、分かりやすくして出しているからです。本日紹介するのは、『十牛図』（上田閑照・柳田聖山著 ちくま文芸文庫）と、『十牛図・自己発見への旅』（横山紘一著 春秋社）です。学者が書いたものですから、十牛図について基礎的な知識が入っていて人さまに話が出来る段階になった人が読むと、とても分かりやすい。ただ、入門書としては分かりにくいと思います。

「十牛図」について、さらっと前回のおさらいを致します。

- ①尋牛・・・牛は悟りです。こういう事をやりたいと思った時が尋牛です。
- ②見跡・・・良い本を見つけた時が「見跡」です。
- ③見牛・・・悟りとはこういう事か！と分かった時が「見牛」です。
- ④得牛・・・自分は悟った、悟りが腹の中にずっと収まったと思う。ただし、すぐにそれは消えてしまいます。悟り続けることは難しいと感じた時が「得牛」です。
- ⑤牧牛・・・自分が悟ったものをベースにして動くことが出来る段階です。
- ⑥騎牛帰家・・・今を楽しんでいる。「らしくあれ」です。不平不満がなく、綺麗な気持ちで生きていけると感じる時が「騎牛帰家」です。
- ⑦忘牛存人・・・牛を忘れて、人だけいる。「晴れてよし曇りてもよし富士の山 もとの姿は変わらざりけり」です。富士山は変わらない。人間で言えば、これ以上良くなりたいと思う気持ちはない、現時点で十分だと思う時が「忘牛存人」です。
- ⑧人牛俱忘・・・迷うこともないし、悟ったという感覚からも抜けた、人間として到達できる最高の段階です。
- ⑨返本還源・・・「染めいだす人はなけれど春来れば、柳は緑、花は紅」です。人間が何も手をかけなくても、自然は普通に廻っている。
- ⑩人麁垂手・・・これはもう難しすぎて分かりません。ただ、世のため人のためと思って生きていると、人麁垂手の段階に入ります。

さて皆さんはご自分がどの段階か、お考え戴きたいと存じます。

お時間になりました。本日の講話を終了致します。